

# 序

このたび、「TKA・UKA 人工膝関節置換術パーフェクト」を東京女子医科大学の岡崎 賢 教授と京都大学の松田で編集することになり、本書のコンセプトをTKA・UKAのトータルマネジメントとして、企画を行いました。膝関節の手術を行う際、手術計画および手術手技はもちろん重要ですが、術前や術後のマネジメントも非常に大切なものです。これからTKAやUKAをはじめの術者にとって、術前後のマネジメントについての知識は必須のものと思いますので、今回はできるだけ紙面を割いて解説を加えることにしました。

変形性膝関節症（膝関節OA）は、まずTKA, UKA, および高位脛骨骨切り術（HTO）の使い分けが重要になってきます。本書はその使い分けからはじめまして、続いて術前に考慮すべき重要な事項について解説を加えています。例えば多関節のOAの場合に、両膝同時なのか、片膝ずつなのか、股関節や足関節の変形がある場合はどの関節を先にするのか、ということは大事なポイントです。関節注射はいつまで行っても大丈夫か、併存症への対応はどのようなことが必要か、なども心配が募るところです。術後については、腫脹の効果的な予防法、車の運転などの開始時期、歩き動作への対策などについても取り上げています。また、インプラントのゆるみや不安定性がなくても痛みを訴えられることもあります。そのような晩期の疼痛対策についても詳しく記載することにしました。

術前計画は非常に重要な手術のプロセスですが、アライメントや靭帯バランスについて目標を記載するだけでなく、なぜこのような目標をとるべきなのかという理論的根拠についても最新の研究結果を紹介しながらできるだけ詳しい解説を加えています。

もちろん実際の手術の内容も重きを置いています。骨切りガイド、ブレードの使い方、セメントテクニックからはじまり、ナビゲーションやロボット手術についてもとりあげました。現在TKAにはさまざまな機種がありますが、すべての機種で手技が同一でよいはずがありません。それぞれの機種に応じた手術手技を詳しく、第一線の先生方に依頼して多くの写真を用いてわかりやすい解説をしていただきました。高度の変形膝、屈曲拘縮、高度肥満なども日常遭遇する頻度が高くなってきていると思いますのでとりあげております。

日本でも症例が非常に増えているUKAについても、内側、外側、ピットフォール対策に分けて解説しています。細かなコツが大変重要な手術術式ですので、参考にしていただければと思います。

以上のように、術前の準備から術中の手技、そして術後のケアまで、まさにTKA・UKAを行うために必要な情報をトータルに網羅した本となっていると思います。ぜひ、日常診療に役立てていただければと思います。

2021年4月

京都大学医学部 整形外科学  
松田秀一